

令和6年生駒市教育委員会第12回定例会会議録

1 日 時 令和6年12月23日(月) 午前9時30分～午前11時12分

2 場 所 生駒市役所 大会議室

3 審査事項

- (1) 報告第18号 令和6年生駒市議会第5回(12月)定例会提出議案の結果について
- (2) 報告第19号 令和7年二十歳のつどいの開催について
- (3) 議案第30号 生駒南小学校・生駒南中学校整備事業に関する基本計画の策定について

4 教育委員会出席者

教育長	原 井 葉 子		
委 員 (教育長職務代理者)	飯 島 敏 文	委 員	レイノルズあい
委 員	中 川 義 三	委 員	吉 尾 典 子

5 事務局職員出席者

教育部長	鋤 田 明 年	生涯学習部長	坂 谷 操
教育部次長	松 田 悟	教育総務課長	山 本 英 樹
教育指導課長	花 山 浩 一	幼保こども園課長	大 畑 勝 士
教育政策室長兼務		幼保こども園課指導主事	長 崎 文
幼保こども園課指導主事	牧 野 由 美	生涯学習課長	井 川 啓一郎
スポーツ振興課長	西 政 仁	教育総務課課長補佐	松 田 美奈子
学校給食センター所長	桐 坂 昇 司	教育指導課課長補佐	中 田 博 久
図書館館長	西 野 貴 子	図書館南分館長	中 川 公 子
図書館北分館長	谷 江 真美子	生駒駅前図書室長	入 井 知 子
スポーツ振興課課長補佐	大 畑 由 紀	教育総務課(書記)	吉 川 優 香
教育総務課(書記)	寺 川 寧 々		

6 施設関係出席者

教育施設研究所所長	八 田 利 幸	教育施設研究所課長	藤 崎 洋 進
-----------	---------	-----------	---------

7 傍聴者 1名

午前 9 時 3 0 分 開会

○開会宣告

○日程第 1 前回会議録の承認

○日程第 2 教育長報告

○日程第 3 報告第 1 8 号 令和 6 年生駒市議会第 5 回（1 2 月）定例会提出議案の結果について

・令和 6 年生駒市議会第 5 回（1 2 月）定例会提出議案の結果について、山本教育総務課長から説明

<参照：議案書 p 1 ～ 2 >

（質疑）なし

審議結果 【報告のとおり承認】

○日程第 4 報告第 1 9 号 令和 7 年二十歳のつどいの開催について

・令和 7 年二十歳のつどいの開催について、井川生涯学習課長から説明

<参照：議案書 p 3 ～ 4 >

（質疑）

中 川 委 員：企業との連携で大抽選会をするなど、新しいことに取り組んでいただいている。SNS や I T 等の使用にも目を向けていただき、子ども達にとって楽しいイベントとなるようお願いしたい。

審議結果 【報告のとおり承認】

議案第 3 0 号 生駒南小学校・生駒南中学校整備事業に関する基本計画の策定について

・生駒南小学校・生駒南中学校整備事業に関する基本計画の策定について、山本教育総務課長から説明

<参照：議案書 p 5 ～ 6 >

（質疑）

飯 島 委 員：現在は北と南に校舎を配置している。校舎を真ん中に配置することによって、建築中に旧校舎を使い続けられることなどのメリットがあると考えられるが、最も重要なメリットはどこにあるのか。

山 本 課 長：生駒南小学校が埋蔵文化財指定区域に入っているため、南に校舎を造らない方が良く考えた。北側にも、埋設管が入っているため、北側に造るとそれにかかってしまう。埋設管を移設することは可能であり、ある程度は整備事業の中で行う予定だが、埋設管をなくすことは出来ない。これらの

ことから真ん中に校舎を配置するのが最も適切と考えられる。また、建設中は生駒南小学校の校舎を利用して中学校の授業も行う予定であることや、工事車両が北側道路からしか入れないため、まず中学校を解体してからになる事も考えれば、この位置が最適である。

飯島委員：その上で、図から校舎の南側にあるメインランドに、200メートルトラックと100メートルの直線があるが100メートルの直線は、グラウンドを斜めに使うと100メートルあるという認識でよろしいか。

山本課長：その認識で結構である。

飯島委員：生駒南小・中学校はそれほど広い印象は無いが、斜めで100メートル取れるなら大丈夫かと思う。

レイノルズ委員：10月、11月でいろいろなワークショップをしていただき、形になってきた。ワークショップでも真ん中に校舎を配置するのが良いという意見が多かったので反映されていると思う。その中で懸念として、職員室から運動場が見えないということが出ていた。職員室は北側の2階で、運動場は南側なので見えない。次に、図面の見方についての確認だが、教室の中で太い線と点線のところがある。これは壁を取って広い空間として使えると考えた時に、例えば3階は廊下も含めて全て点線になっているのは、行き来が出来たり、クラスをサイズに合わせて調整出来ることを想定しているのか、見方を教えて欲しい。

山本課長：多様な使い方が出来るように考えている。多目的室に関しては今後クラスが増えた時に教室に出来るようにと考えている。柔軟に対応するために現段階ではあまり壁を作らないことを考えている。

レイノルズ委員：オープンスペースというのはとても柔軟性が高まる。メリット、デメリットを合わせて検討出来たらと思う。

吉尾委員：小学校1、2年生の教室が広くて、3年生以上の教室が狭いのは柔軟に対応するためなのか。

山本課長：小学校1、2年生の教室が広いのは、ほぼその教室で授業が完結することからである。3年生以降になると音楽室などの諸室を使う事が増えることを想定している。図面では小さく見えるが、現在の教室よりは広い。今考えている中では、教室の中のロッカーは無くして廊下側にスペースを作る予定である。

吉尾委員：オープンも良いが、不審者対応も頭に置いておくべきである。子ども達が落ち着ける部屋を各教室に作っているのは画期的だと思うが、本当に有効に使えるのか、本当に必要であるかは考えるべきだと思う。また、図面にあるように、ランドにドッチボールの線は引かれている状態になるのか。

山本課長：大きさを見るために線が引かれている。現段階で線を引いておくことは考えていない。

吉尾委員：子ども達が自分で考えて線を引くなどしてグラウンドを使っていくことも主体的な教育につながるのではないかと思います。土や自然を身近に感じる畑や栽培をするような場所は考えているか。

山本課長：今のところ想定していないが、今後考えていきたい。

吉尾委員：ビオトープなど水や土に触れられる場所は大事だと思う。

中川委員：地域職員と小学生、中学生の入口が別になっているのは給食の搬入や駐車場等で子ども達の安全に良く、地域の方も使いやすい。1年生が職員室や北側の小さい運動場に近いのも良い。その近くに吉尾委員の言うような栽培の場があれば、すぐに外に出て観察ができるので配置場所として良い。小学校1、2年生の教室にあるデンの点線部分はカーテン等があるのか。

山本課長：まだそこまで考えていない。

中川委員：クールダウンの場所として近くに防音の場所があるのがありがたい。必要であればカーテン等も考えていただき、地域にも使い易いように話し合いを進めていただきたい。

山本課長：地域との融合も大きなテーマである。ただ、防犯というところも保護者の方から多く意見が出ていた。どのように安全性を確保しつつ多くの地域の人が来られる場所にするかが最大のテーマである。人を資源と考え、学校にどのように貢献してもらえるか、働き方改革の中でどのような活用が出来るのかを考えた上で、学校にどのような影響を与えられるかというのがコンセプトにある。

中川委員：地域の方にもランチルームや体育館の活用をしていただき、図書室での小さい子ども達への読み聞かせや大人の読書会など生駒市にあるイベントでも活用していただきたい。

飯島委員：デンというスペースを見ると、教室の一番奥のオープンスペースから離れた所に設けられている。その場合、その教室内でしか使われないということになるので、オープンスペースに近い側にデンを設けるのもありなのではないかと思う。そうするとデンがデッドスペースにならず、場合によっては他の学年との交流スペースになるのではないか。オープンスペースにもなりデンにもなるという使い方だと選択肢が広がる。職員室からグラウンドが見えないが、出来るだけ中学生側のメイングラウンドも見えるようになってほしい。図書室と教室が離れていることによって不便さがないのか先生方やお子さんと意見交流してほしい。

山本課長：デンについては、まだ議論中である。低学年は先生が教室内で目が届くという意味で今の形でも良いかと思う。高学年に関しては今の形で良いのかと検討中である。職員室については配置が難しく、小学校と中学校のグラウンド両方が見渡せるのが一番いいと思うので、どのような配置に出来るか十分検討したい。

原井教育長：サポートルームが3、4階に4つずつあるが、デンとどのように違いがあるのか。

松田補佐：サポートルームは閉じられた空間でクールダウンするスペースであり、デンは教室の延長で、先生方が気配を感じながら一緒にクールダウンしてもらう空間である。

吉尾委員：クールダウンさせたいとしても子ども達が自分にあった場所を決めていくということもあると思う。年齢が上がってくると自分の状況も分かってきて、自分で居心地の良い場所や雰囲気が分かってくるのではないかな。落ち着けるといえるのはどういうことなのか、子ども達の成長や心理を含めて考えてほしい。図書室が広く取ってある。図書室は本数が膨大であり、利用する年齢の幅がある。自分がやりたいことを、やりたい場所で学習できるようになってくるのであれば、必ずしも年齢で分ける必要はないかもしれない。図書室もこれからは学習のスペースになると思われるので、その部分を含めて構造とあり方を考えるのが大事である。多様性や主体的な学び、柔軟な対応等の基本的な理念は大切にして学校環境の在り方を考えていきたい。

原井教育長：生駒北小中学校では、図書室に入って右側が小学校用、左側が中学校用となっているが、どちらに入っても何を読んでも良い。発達段階に合わせて使えるように図書室は広く取っている。また、隣の南コミュニティセンターにある図書室で、地域の人と子ども達が一緒にどのような使い方が出来るのかという部分も考えていかなければならないと思う。

中川委員：視察に行った学校の中でクールダウンの部屋は、出入り口が二か所あった。例えば、2階の小学1年生の教室は廊下に面しているので、そちらからも入口を作れば、子どもがクールダウンできなかった時に支援の先生が入りやすく、サポートしやすい。そのような可能性も考えて設計に生かしてもらいたい。

レイノルズ委員：図書室の位置が中学校から遠い。中学生は読書の時間が減っているので、教室を出たところに本棚がありすぐに借りられるなど、もっと日常の中に本が入ってくるような空間造りにするも良いと思う。南コミュニティセンターの図書館のすみ分けもワークショップで意見があったと思うが、小中学校の方は学年向けで、コミセンの方は広い世代向けというような図書のすみ分けも出来るだろう。

原井教育長：先ほどの図書の件だが、図書室自体を置かず、メディアスペースに図書コーナーのようなものを置き、バーコードをかざして自由に借りられるようにするなどということか。

レイノルズ委員：図書室は図書室であって良いが、わざわざそこに行かなくても本に触れられるように様々な場所に本を置くのは良いかと思う。余剰教室にクッショ

ン等も置いて本を置けば、生駒市が目指している居場所作りに繋がるのではないか。

中 川 委 員：レイノルズ委員の言う通り、本を借りに行ったり、手に取ったりするなど、本に触れることはとても大事である。子ども達もメディアスペースにあれば借りやすいし返しやすい。手に取りやすい環境作りを進めていただければと思う。

吉 尾 委 員：工事車両は中学校の前から入ってくるのか。

山 本 課 長：工事車両については北側の正門となっているところから入ってくることになるかと思う。現在東館のあるところが進入口になるだろう。

吉 尾 委 員：中学生の自転車通学はないのか。

山 本 課 長：生駒南中学校には自転車通学者はいない。市内では光明中学校と生駒北中学校だけである。

飯 島 委 員：大阪の小学校ではよく教室まで下足のまま入れるところと、上靴で入れる場所といろいろあり悩んでしまう。下足のまま入れる学校でも多目的室や音楽室は靴下で入るので、外に靴を置く状況になり、廊下に靴が散乱している状況になる。図書館はカーペットが敷いてあるのである程度土埃も吸着するが研究室だとカーペットを敷いていないので、本に砂埃が貯まっていた。上靴や靴下で入るところは土埃が少ない。下靴で入るか上靴に履き替えるかの判断はいろいろな人の意見を伺い決めていっていただきたい。図書室については検索サービスなどで機械を使った利用が増えている。電子書籍も増えているが紙で見る機会は存続するだろう。できれば高学年や中学生が行きやすい場所に図書室を配置していただき、なお且つ I C T を使った検索サービス等の利用に際し、使い勝手が良い将来を見据えた設計でお願いしたい。

山 本 課 長：下足で校舎に入るかについても事務局の中で議論がある。小学生が北側の 1 階から、中学生は南側の 2 階から入ってくる。例えば南側から来る小学生は北側に回って通学する必要がある。その解決方法として昇降口で履き替えないのが良いのではないかという意見があり、プランとしてある。その場合、床をどうするのかなど、今後教員の意見を聞きながらの検討課題である。昇降口は場所を取るので、履き替えない場合はそのスペースを別の用途に使える。図書室については地域に開放する目的もあるが、まずは学校の使用の仕方を十分に取り入れ、意見を聞いてから決めていきたい。

レイノルズ委員：確認だが、今回の案ではプールが無い。これはプールを造らない想定であるのか。造らないとしたら選択肢としてどのようなものがあるのか。

山 本 課 長：記載をしていないということは、この段階ではプールを造らないことを想定している。生駒南第二小学校のように、きらめきのプールを使う方法などはあり得る。生駒南小学校の建て替えに際し、市内の学校全体のあり方やプールのあり方を並行し考えていきたい。

吉尾委員：地域学校協働活動は、子どもを学校と一緒に育てていこうというのが基本のスタンスだと思う。学校の教育目標や理念をしっかりと理解していただき、ともに過ごすということは大事であると思う。その辺りもしっかり話し合いながら進めていただきたい。

原井教育長：とても大事な部分である。なぜ学校へ足を運んでいただけるかというところをしっかりと考えてつくっていききたい。この図面を見ていただいた上で、義務教育学校についての議論も重ねていききたい。

飯島委員：拝見する限り、義務教育学校の図面であると言っても小中一貫校の図面であると言っても通用すると思う。義務教育学校になると設計上の決まりはあるのか。

山本課長：建物的な決まりは無いと思われるが、ソフト面のところで変わってくると思われる。

原井教育長：教育的なところではそこまで大きく変わるのではなく、建物的にも決まりは無いということである。

吉尾委員：子ども達が主体的で多様な学びができる学校とはどういう学校なのかと思うところがある。新しい学校が出来るというワクワク感を大事にしたい。新しい教育を目指していくためにはどうしたらいいかを一番に考えていききたいと思う。柔軟な捉え方で運用ができる義務教育学校にしたいという気持ちは高まっている。しかし決定打が自分の中にまだ無い。子どもたちがこれから新しい学びをしていくことに対する気持ちをしっかりと持っていきたい。

原井教育長：義務教育学校にすると9年間一貫して先生方が子ども達を教育できるところが大きなメリットかと思う。

レイノルズ委員：新しく学校を建てるということは今後50年、100年先続いていくと考えたとおそらく少子化は間違いないので、今後どのようなコミュニティになっていくのか未知数の中、柔軟性の高い点がひとつ大きなメリットと思われるので、小学校と中学校で分けるよりは一つの学校としてより柔軟に時代に合わせて対応できる方が望ましいと思う。費用面でも義務教育学校にすることで補助金が違うことも大きなメリットである。義務教育学校としてのメリット、デメリットについても、今後保護者会で地域の方々にこの図面を見せる機会があると聞いているのでこの辺りのご説明、ご意見を伺ってもらえたらと思う。

飯島委員：小中一貫校か義務教育学校かの議論について、校舎のハードウェアとしていずれも使えるように設定されていくかと思うが、どのように運用していくかについては、子ども達にとってどちらがためになるのか、有効なのかという視点で造られるべきである。義務教育学校だからこそ出来るという部分はあるだろう。義務教育学校として運用する際は、校舎の設計において、先生方や子ども達の動線が変わってくると思うので、設計段階でどち

らで運用していくのかをある程度考慮して設計に活かしていく必要がある。例えばトイレ、特別教室の位置がこれでいいのか、小中学校のチャイムを同じにしているのかなども含めて、義務教育学校としての可能性を十分検討して設計の修正に活かしていただきたい。

原井教育長：チャイムの問題は保護者の方も心配されている部分である。

中 川 委 員：義務教育学校は先を見据えた教育が出来るという面で良い運営だと思う。先生方の意識も変わっていくのではないかな。訪問した学校の中で、小中学校の先生の授業数を分担しながら、先生方の授業実数が16時間くらいで統一出来ているということも聞いた。そうすると先生方の働き方の効率化にもつながり、子ども達をしっかりと長く見つめられる。また、PTAについても1つの学校では6人くらいが運営しているがこの負担も軽減できる。義務教育学校はその点で良い選択肢である。

原井教育長：先生方や保護者の方の意見もしっかり聞きながら、教育委員会でも今後とも協議を進めていきたい。

審議結果 【原案のとおり可決】

○日程第5 その他

・壱分幼稚園の認定こども園整備事業について、大畑幼保こども園課長から説明

<参照：その他資料1>

(質疑)

吉 尾 委 員：保護者に心配や不安が無いように進めていただきたい。保育の内容について、地域性もあるので細かいところでは違いはあるだろうが、なばた幼稚園は同じ公立幼稚園なので大きな理念は生駒市の教育の目標に従っており大差は無いだろう。その辺りはしっかりと説明をしていただき、保育に関して安心して子どもを預けてもらえるように伝えてほしい。合同の保育が始まったら、壱分幼稚園からなばた幼稚園への通園バスはどのようなのか。

大 畑 課 長：徒歩で通園される方は壱分幼稚園近くのバス停を設置する予定なので、そこからなばた幼稚園に通園していただく。現在バス通園している方は直接なばたに通園していただくことを検討している。

吉 尾 委 員：徒歩通園の方の通園費は発生するのか。

大 畑 課 長：壱分幼稚園となばた幼稚園間についてはバス代を無料にすることを考えている。

吉 尾 委 員：工事中の安全を考えると壱分幼稚園のコースが出来るのは安心である。

レイノルズ委員：経緯の確認だが、壱分幼稚園の解体中に伴う音などの懸念があり、なばた幼稚園での保育をすることになったという経緯だったかと思うが、保護者から他にどのような意見があったのか。

大 畑 課 長：壺分幼稚園の保護者からの要望が多かった。その中でなばた幼稚園での保育という意見も上がっており、その要望に応えるような形となった。預かり保育の時の迎えや体調不良などの緊急な際には、車での迎えを認めるような形で考えている。また、意見交換会時に園舎のお別れ会を実施して欲しいといった要望があり、出来る限り実現したいと考えている。他に、現在はボランティアが見守りなどをしているが、決定した事業者に交通整理の設置をしてもらいたいと要望があり、前向きな検討をお願いしている。

レイノルズ委員：その他資料１の裏面の進入ルートについて、これまではこのルートでの車の出入りはそれほど多く無かったと思うが、車の進入が多くなることで、近くの壺分小学校の登下校の時間帯に車の進入が多くなるが、見守りや交通整理はどのようにするのか。

大 畑 課 長：通学路については壺分小学校の先生方の意見を聞きながら調整中である。改めて整理していく。

- ・令和７年１月行事予定について、山本教育総務課長、井川生涯学習課長から説明（質疑）なし

○閉会宣告

午前１１時１２分 閉会